

令和6年度 学校評価表		島根県立平田高等学校	
本校の使命			
校訓	自律・協同・創造		
教育方針	主体的な姿勢と協調の精神をもって、常に新しい時代を切り拓き、豊かに生きていこうとする姿勢を育む。		
教育目標	1. 自己の目標に向かう上で、自己を律することができる力を育てる。		
	2. 自己の役割を考えた上で、協調・協力することができる態度を育てる。		
	3. 自己の実現を目指す上で、豊かな生き方へと創意工夫する態度を育てる。		
4段階評価　4…強くそう思う・よく当てはまる　　3…そう思う・ある程度当てはまる　　2…あまりそう思わない・あまり当てはまらない　　1…全くそう思わない・まったく当てはまらない			
※【評価】　A……良い　　B……まあ良い　　C……あまり良くない　　D……良くない			



自己評価算出方法

①各学校評価実施項目ごとに教職員・生徒・保護者アンケート結果によりそれぞれ評価値平均を算出

②①で算出した平均を評価項目ごとに平均し総平均とする

③総平均値が3.2以上→A、3.0以上→B、2.8以上→C、2.8未満→D

目指す学校像	◎地域から信頼される、魅力と活力のある学校づくりの推進	
	1	一人一人の生徒を大切にする支援体制の充実
	2	生徒の主体性を育む教育活動の推進
	3	生徒の学びの質を高めるための授業改善の推進
育てたい生徒像	4	地域との協働による魅力化の推進
	1	自他の人権を尊重し、差別をなくす実践力のある生徒。
	2	自己管理ができ、諸活動に対して主体的に取り組む生徒。
	3	「生きる力」となる学力を身に付け、たくましく自己実現を目指す生徒。
目指す教職員集団像	4	社会の一員であることを自覚し、よりよい社会の実現のために貢献する生徒。
	1	ひとりひとり意欲的に　～前例に固執せず、アイディアを出そう
	2	楽天的に　　　　　　　　　～失敗を恐れず、何かの際にはチームで共有
	3	たのしく、元気に、　　　～楽しみながら、自らを高めよう

重点指導目標		評価番号	学校評価実施項目	目標達成のための方策	分掌	自己評価 関連アンケート番号						自己評価 概評と改善策		学校関係者評価								
						教職員		平均	生徒		平均				保護者		平均	総平均				
1	自律の精神の育成 ・基本的な生活習慣・学習習慣の確立を推進する。	①	自律的行動と礼節ある態度の育成	言葉遣いや立ち振る舞い、挨拶や頭髮、服装の指導	生徒学年	13 (2.8)	34 (3.1)	38 (2.9)	42 (2.8)	2.9	8 (3.1)	3.1	6 (2.9)	2.9	3 B	3.1 B	・マナーやモラルについて、規則を厳しくして従わせるのではなく、時と場に応じ、適切な声がけをしながら自己指導能力や自律性を育成したい。 ・手帳「大夢」については活用している生徒としていない生徒の差が大きい。スケジュール管理をデジタル化することもできるので、手帳を持たせる必要がなければ再来年以降の廃止も検討する。形態はどうであれ、生徒が自分でスケジュール管理ができるような指導は必要である。 ・家庭学習に関する評価は生徒と保護者で数値の差が大きい。定期試験や課題テスト、その他の課題などが出されているので、見通しを持って学習するように継続した指導が必要である。 ・特別な支援が必要な生徒が増加している。担任保護者と連絡を密にし、スクールカウンセラー、通級指導、外部機関とも連携して支援を行った。	・「ルール違反をしている人がいる」と生徒が感じないように、どのような理由でどのような指導をしているのかについて生徒たちに丁寧に説明することが大切である。 ・家庭学習の定着が課題である。単に宿題を増やせばそれができなくて学校に来にくい生徒もいると考えられる。個々に学習が進められるように学習方法を指導する必要がある。 ・手帳でスケジュール管理をする方法が一時期は主流であった。デジタル管理の方がしやすい生徒もいて一斉指導が難しいのであれば、廃止の検討も必要である。 ・基礎学力、普段の地道な学習を探究学習とうまくリンクさせ、探究学習が平素の学びのモチベーションに繋がるような発想を持つことが大切である。				
		②	マナーやモラルの向上	・携帯電話やインターネット利用法の指導 ・外部の協力を得て、街頭指導や自転車点検を行い、交通ルール遵守の徹底を図る	生徒		16 (2.9)	17 (3.1)		3	11 (3.3)	3.3			3.2 A							
		③	基本的学習習慣の確立と家庭学習習慣の定着	・手帳「大夢」を日常的に活用させ、自己管理を行わせる。また、自己実現に向けての到達目標を設定させ学習に対する意識を高め、主体的に学習に取り組む姿勢を身につけさせる ・学年会、教科会との連携を密にする	学年教務	10 (2.8)	32 (3.0)	36 (3.0)	40 (2.9)	2.9	2 (3.0)	3			3 B							
		④	健康の維持増進と安全管理体制の確立	・保健便りを定期的に発行する ・心身両面の健康状態の把握に努め、保護者・担任・学校医との連携を図る ・校内の緊急連絡体制を確立するとともに計画的に安全点検を実施する	保健		23 (3.4)	26 (3.3)		3.4	15 (3.2)	3.2	7 (2.8)	2.8	3.1 B							
		⑤	生徒支援の充実	・支援を必要とする生徒について、担任・保護者・保健室・他機関との連絡を密にし、早期対応に努める ・特性や困難に応じた合理的配慮を拡充するとともに学習に取り組みやすい環境に整備する	保健			24 (3.4)		3.4					3.4 A							
2	協働・協同の態度の育成 ・個の目標と集団の目標をリンクさせ、ともに努力する体制を整える。	⑥	各種行事・式典の充実	・しまね教育の日に合わせた行事の充実を図る ・式典や学校行事や諸会議など、全教職員の協力体制を築きながら効果的な運営に努める	総務		1 (3.3)	6 (3.3)		3.3					3.3 A	3.3 A	・健康面その他に配慮し、体育館に集合せずオンラインを活用した式典や全校集会を行い、定着している。今後も目的に合わせて活用していきたい。 ・いじめの早期発見、早期対応に組織的な協力体制のもと取り組むことができた。 ・学園祭等の生徒会行事については生徒評価が高い。行事の中で生徒間のトラブルが発生することもあるが、その都度指導し、対人関係能力向上につなげていきたい。 ・多文化共生や差別事象を詳しく学び、将来の生き方について考える3年間の流れが人権意識を高める機会として定着しつつある。 ・ボランティアについて、JRCの活動、生徒への公募等を通し、全体として積極的に参加できた。総探の授業ともリンクさせ、より地域に出かけられるように生徒への情報提供を行っていく。	・協働するために必要なルールについて、なぜルールがあるのかを考えさせる機会を持つ必要がある。 ・いじめ等のケアも含め、特別な支援が必要な生徒については今後も見守っていただきたい。 ・生徒会を動かしてマナーやモラルについてクラス単位で競わせるなどしながら日常の生活に規律や一体感を持たせてはどうか。 ・JRC部を中心にボランティア活動が行なわれている印象である。地域ボランティアなどを含め、他の生徒も参加しやすいような工夫があるとよい。 ・部活動参加生徒が多く、全国大会への参加等の活躍を評価したい。				
		⑦	いじめ防止	・いじめ防止と実態把握に努め、問題があれば組織的かつ速やかに対応する	生徒			18 (3.3)		3.3					3.3 A							
		⑧	自分が果たすべき役割意識と望ましい人間関係の形成	・諸活動に参加させ集団や社会に貢献しようとする意識と態度を育成する ・学校行事や部活動等における集団活動を支援する	学年生徒		14 (3.0)	39 (3.2)		3.1	9 (3.6)	3.6			3.4 A							
		⑨	自他の人権が尊重される学校人権意識の育成	・相手を思いやる発言や態度を心がけさせ、互いに認め合い高め合う人間性を育てる ・生徒の人権意識について実態把握に努め、学校生活のあらゆる機会をとらえて人権教育の推進を図る	学年図書			31 (3.2)		3.2	13 (3.4)	3.4			3.3 A							
		⑩	学校内外での活動の活性化	・生徒会や委員会活動など生徒の主体的活動を支援する ・地域でのボランティア活動など課外活動への参加を奨励し、環境を整える	生徒図書		15 (3.2)	30 (3.1)		3.2	10 (3.3)	3.3			3.3 A							
		⑪	環境衛生・美化の推進	・保健委員・全教職員の協力により美化意識の高揚に努める ・時間いっぱい清掃に取り組ませる	保健学年			25 (3.1)		3.1	16 (3.4)	3.4			3.3 A							
3	「豊かに生きる力」につながる学力の育成 ・地域協働学習を通して、生徒自身で未来をデザインする力を育成する。	⑫	地域協働学習の充実	・地域協働学習の一層の充実を図り、学びを社会に生かそうとする態度を養う ・総合的な探究の時間を軸とした探究的な学びを推進する	教務図書			29 (3.2)		3.2	7 (3.5)	3.5	4 (3.1)	3.1	3.3 A	3.3 A	・地域が抱える問題を考える機会を持つことで、社会貢献意識の醸成に繋がっている。 ・3年生の補習については教職員の意見を集約し、現在検討中である。今年度の進路結果や来年度3年学年会の意向も踏まえ、さらに検討する。 ・特に1年生では各種ガイダンスを通じて進学や地元企業についての知識を与え、自発的に行動する基盤となるものを身につけさせることができた。 ・進路情報については、学年部を中心に概ね有効に提供できた。保護者に対する説明会や講演会の参加率を上げる工夫について検討が必要である。 ・今年度は保護者宛文書を「さくら連絡網」で配信し、保護者へ連絡が届きやすくなったと思われる。奨学金関係の情報は教室掲示で生徒に案内しているが、申し込み人数が多い奨学金についてはさくら連絡網での配信を検討したい。 ・HPやインスタグラムの更新を適宜行っている。部活動結果について、できるだけ早くHP掲載ができるように校内での呼びかけを強化したい。PTA通信について、発行回数を減らして内容を充実させることについて検討が必要であると考えている。 ・図書館の利用しやすさについて、生徒の評価値が大幅に上がっている。貸出冊数については昨年度ほぼ同数で、読書離れの傾向が続いている。	・補習の実施方法について次年度に向けて検討してもらっている。個々の生徒がそれぞれの進路に主体的に向かえるような工夫の一環として、平田高校にとって良い形にしてもらいたい。 ・進路講演会の保護者参加率が低いことに関しては、届けたい保護者の層に届いていない可能性が考えられる。オンライン配信を検討してもよいのではないか。 ・探究学習でもっと図書館を使ってはどうか。タブレットがあるので、そこが入り口になるのは良いが、深い情報収集の場面では図書館の利用を促すとよい。平田高校の図書館は選書もよく、整備されているので活用してもらいたい。 ・スマホの普及とともに読書量が減少し、これが学力低下に繋がっている。授業やHR等で図書館を利用する時間作り、本との出会いの場を強制的に作ることも必要である。 ・学校評価に関する保護者アンケートについて、さくら連絡網で配信したことが回答率の上昇に繋がっている。一方、生徒の回答率が低いことが気になる。 ・HP等で部活動などの結果報告が遅れがちであるが、教員の業務が多いことが一因であると思われる。増やすばかりでなく減らすという視点も大切である。				
		⑬	学力の向上と充実	・家庭学習への支援 ・公開授業と生徒による授業アンケートの実施 ・教科主任会、教科会、学年会等に情報提供を積極的に行い、緊密に連携をとり、学力の定着・向上のための方策を検討し、実践する ・各学年会での学力分析会、進路検討会を充実させ教員間で共通理解を図る ・模試、補習、小論文指導、面接指導、個別学習指導等を効果的に実施する	教務進路		8 (2.5)	9 (2.9)	11 (3.0)		3	1 (3.1)	2 (3.0)	3.2	1 (3.0)				3	3.1 B		
		⑭	3年間を見通したキャリア教育の充実	・魅力ある教育課程の編成を行う ・早期の進路目標の確立を促し、その実現に向け、2年生の研修旅行を充実させるとともに、看護体験等様々な教育活動を支援する ・地域の企業や上級学校の見学、大学生や社会人の体験談を聞く機会を設ける ・進路講演会、進路資料などを通じて的確な進路情報を提供する ・個人面談等を通じて、生徒理解に努め、きめ細かい個に応じた進路指導を実施する	教務進路学年		22 (3.3)	35 (3.2)	43 (3.4)		3.3	4 (3.4)	6 (3.5)	3.5	2 (3.0)				3 (3.0)	3	3.3 A	
		⑮	図書館利用の促進	・図書館を活用した学びの支援を図る ・校内ビブリオバトル大会、生徒図書委員会、読書指導、広報活動等を通して生徒の読書意欲の高揚を図る	図書			27 (3.1)		3.1	12 (3.3)	3.3			3.2 A							
		⑯	地域・保護者と連携した学習体制の充実	・HPの充実、インスタグラムの活用、PTA通信や平高通信の発行により地域や保護者の学校理解を深める ・PTA主催行事の内容充実を図り、会員参加率の向上を図る ・各種奨学金制度に基づく生徒の学習支援体制を充実させる	図書総務		2 (3.4)	3 (3.3)	4 (3.2)	5 (3.3)	3.3	14 (3.3)	3.3	5 (2.8)	8 (2.9)				9 (2.9)	.10 (3.0)	2.9	3.2 A
		⑰	ICT機器活用の推進	・校内LAN、ICT機器等の保守管理に努め、教員個々のニーズに応える。また、生徒の授業におけるICT機器の利用促進を図る	図書			28 (3.4)		3.4									3.4 A			